

DIGITAL TECHNOLOGY

デジタル・テクノロジー基本研修ガイドライン

研修の企画、展開の指針

CONTENTS

I.	デジタル・テクノロジー基本研修ガイドラインの作成目的	3
II.	デジタル・テクノロジー基本研修の実施枠組み	4
	1. デジタル・テクノロジー基本研修の概要	4
	① 理念	
	② 目的	
	③ 対象	
	④ カリキュラムの全体構成	
	2. 研修全体の展開	7
	3. 研修の実施方法	8
	① オンデマンド動画	
	② 事前課題	
	③ 集合研修（面接授業）	
	④ 自職場での取り組み課題	
	⑤ 伴走的支援	
III.	デジタル・テクノロジー基本研修のカリキュラム	13
	1. シラバス	13
	(1) 受講の準備	
	(2) オンデマンド動画（必須）	
	介護過程の応用的理解	
	科学的介護の基礎的理解	
	介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解	
	チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法	
	介護現場の問題発見と解決スキル	
	介護ロボット・ICT 活用の基礎的理解	
	事前課題	
	(3) 集合研修（必須）	
	介護現場の業務改善（演習）	
	介護ロボット・ICTの導入（演習）	
	利用者支援に向けた活用（演習）	
	自職場での取り組み課題	
	2. 集合研修（面接授業）カリキュラムの例	25
	3. 受講生用自己評価チェックリスト	30

デジタル・テクノロジー 基本研修ガイドラインの 作成目的

- デジタル・テクノロジー基本研修ガイドラインは、介護現場の生産性向上を推進することができる人材育成を効率的・効果的に行うために、研修機関が本研修を企画、展開する際の指針として示すものです。
- 令和5年度に実施した「デジタル・テクノロジー基本研修（モデル研修）」の成果をふまえオンデマンド動画や課題の設定のしかた、集合研修の運営方法の検討に役立てることを目的に作成しました。
- また、研修に参加する方が、本研修の意図を理解し積極的に取り組んでいただくためにも教材や取り組み方法の例示を掲載しました。講師や受講生が、あらかじめ本研修の理念とカリキュラムを理解いただく基本資料となっています。
- 研修機関が本研修を実施する際は、本ガイドラインに記載している内容にすべて従わなければならないというのではなく、研修目的や受講生数、開催方法等により必要な内容を参考に、企画・展開していただくことを期待します。





デジタル・テクノロジー 基本研修の実施枠組み

1 デジタル・テクノロジー基本研修の概要

1 理念

- 介護現場における生産性向上とは、テクノロジーの活用等で業務改善や効率化等を進めることにより、職員の業務負担の軽減を図るとともに、業務改善や効率化で生み出した時間をケア業務に充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど介護サービスの質の向上につなげることです。研修を実施する際には、この理念を受講者へ示す必要があります。
- 本ガイドラインでは、国が推進する介護分野の生産性向上の考え方をふまえつつ、介護サービスにおける生産性向上を次のように整理しました。

介護サービスにおける生産性向上

1. 要介護者の増加やニーズが、より多様化していくなかで、業務を見直し、限られた資源を用いて一人でも多くの利用者に質の高いケアを届けること。
2. 改善で生まれた時間を有効活用し、利用者に向き合う時間を増やしたり、自分たちで質をどう高めるか考えていくこと。
3. 均質性のとれたケアを持続するために、職員が自ら考え提案することができる、専門職としての資質の向上と、ゆとりのある職場環境の維持に努めること。

- 介護サービスの質の向上をめざすためには、人材の定着・確保とモチベーションの向上が必要であり、いずれも相互に関連しています。これらの目的を達成するためには、次の5つの要素が必要になります。

職業倫理を高める（倫理観や職業道徳を強化するための教育機会を確保する）

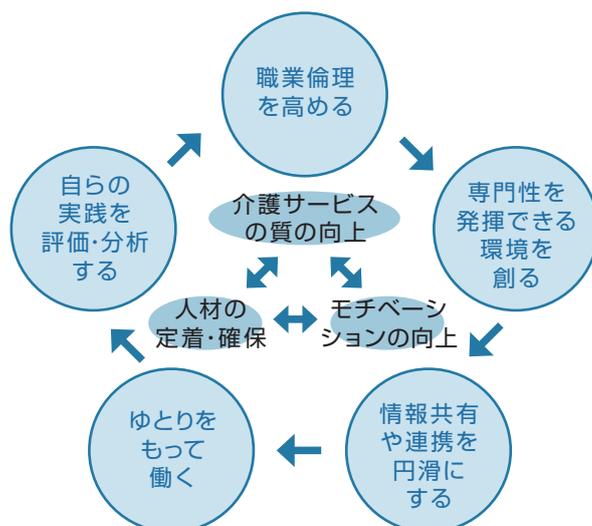
専門性を発揮できる環境を創る（専門知識やスキルを最大限に活かせる環境を整備する）

情報共有や連携を円滑にする（情報共有や他職種との連携を円滑にする仕組みを整備する）

ゆとりをもって働く（労働環境の改善や業務の効率化を行い、業務の負担軽減を図る）

自らの実践を評価・分析する（自分自身や職場全体の実践を客観的に評価し分析する）

- これらの要素が相互に連携し、絶え間ない改善サイクルをつくり出すことで、介護サービスの質は向上を達成することができます。



2 目的

- 本研修の目的は、介護現場における生産性向上の方策のひとつとして、テクノロジーを導入し、効果的に活用することにより、より質の高いケアを実践できる職員を育成することです。
- 利用者の自立支援につながる個性の高いケアを実現するために、介護現場や組織全体がチームとなって業務改善に取り組むためのリーダーシップと、介護ロボットやICTを最大限に活用することができるアセスメント力をはじめとする、科学的介護の実践力の涵養をめざします。

3 対象

- 次の2つの条件を満たす、介護施設や事業所等に勤務している方を対象とします。
 - ① 介護現場での実務経験が3年以上ある方
 - ② 自職場で業務改善や介護ロボット・ICT導入を担当している方（取り組みたいと考えている方）
- また、本研修では、ICTツールを実際に使いながら、演習中心の集合研修をオンラインで取り組んでいただくことから、パソコンの基本操作、Eメール送受信、ファイル保存・管理、インターネットを用いた情報検索、スマートフォンのアプリダウンロード等がスムーズにできること、WordやExcel等を使えることが、受講するうえで望ましい要件となります。

4 カリキュラムの全体構成

- 本研修の学習内容は、介護に従事する者に必須となる倫理観を基盤に「介護福祉の実践力」、「チームをまとめる力」、「介護現場の生産性を向上させる力」の3領域で構成されています。
- 受講者が効率的に学習を進められるよう、各科目の内容は、介護現場における生産性向上の取り組みを持続するために必要となる知識や技術に焦点をあて、取り上げる項目を絞り込んでいます。
- 研修スタイルは、受講生が自分の都合にあわせて受講するオンデマンド動画、リアルタイムで他の受講生と一緒に受講する集合研修、受講生が勤務先で取り組む課題など、複数の方法を組み合わせた形態です。
- 受講生の経歴や既に修了した研修等によって、受講免除（履修科目の読替）を行うことで、介護現場で働く受講生が効率よく受講することも可能です。
- ただし、前述したとおり各科目の内容は取り上げる項目を絞り込んでいますので、集合研修を効果的に受講するために必要な知識は、先にオンデマンド動画で確認しておく必要があります。いずれかの受講のみでは、本研修の目的は達成されないことに気をつけてください。

デジタル・テクノロジー基本研修の主なカリキュラム

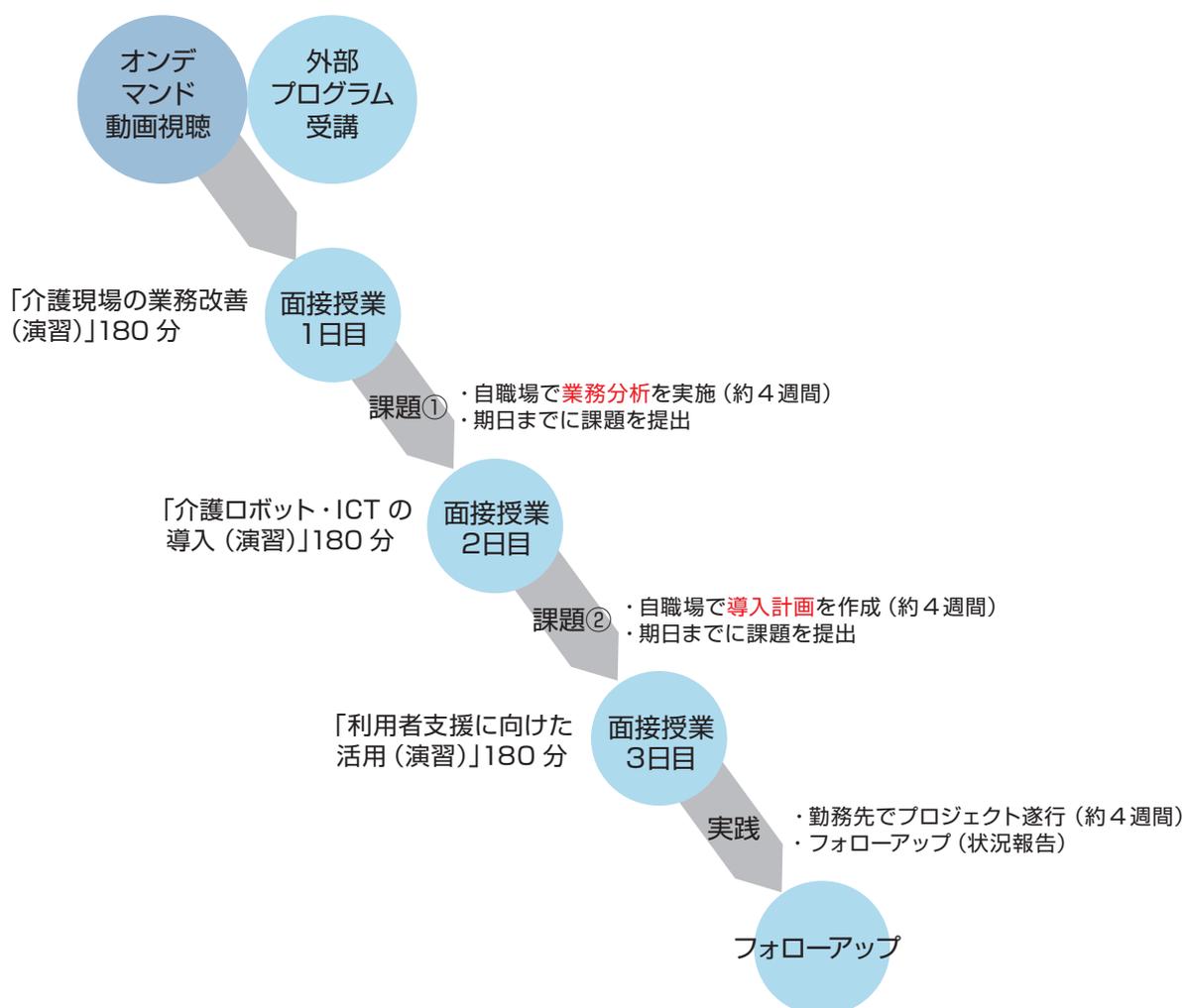
領域	科目等	時間	方法	
介護福祉の実践力	介護過程の応用的理解	7時間	オンデマンド 動画	
	科学的介護の基礎的理解			
	介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解			
チームをまとめる力	チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法			
介護現場の生産性を向上させる力	介護現場の問題発見と解決スキル	9時間	面接授業	集合研修
	介護ロボット・ICT活用の基礎的理解			
	介護現場の業務改善（演習）	8週間	課題	
	介護ロボット・ICTの導入（演習）			
	利用者支援に向けた活用（演習）			
自職場での取り組み課題（①業務分析、②介護ロボット・ICT導入計画の作成）				

※ 本研修を効果的に受講いただくために、上記科目のほか、介護ロボット・ICTに関する外部プログラム（研修、資格、セミナー等）を受講することを強く推奨します。

2 研修全体の展開

- 集合研修の期間中は、受講生全員がリアルタイムで受講する面接授業と、受講生各自が自職場で取り組む課題を実施します。
- 集合研修（面接授業）の日程は、半日×3回（計3日間）を基本とします。
- 受講生は、集合研修が始まるまでにオンデマンド動画を受講し、面接授業を受講する際に必要となる知識やスキルの基盤を作っていきます。
- 本研修では十分な学習が難しい、介護ロボットやICTに関する専門的な知識については、外部の研修会や資格試験等の機会を活用し、知識を補うことを推奨しています。

研修の流れ



3 研修の実施方法

1 オンデマンド動画

- 介護現場の生産性向上の取り組みを行う際に、実践者に必要となる知識やスキルに焦点を当て、各科目の内容と構成を検討していきます。
- 受講生が隙間時間を活用して受講できるように、動画 1 本あたりの時間は長くなり過ぎないように配慮する必要があります（例えば、40 分程度）。
- 受講生のペースで学習することが可能ですが、受講が進まなかったり、緊張感がなくただ視聴しているだけになる可能性もあります。理解達成度の確認のためのテストや、受講履歴の活用、質問ができる体制を整備する等、受講管理が必要となります。
- 集合研修で用いる ICT ツールやアプリの基本的な使い方に関する動画があると、受講生の安心や受講意欲にもつながると思われれます。

2 事前課題

- 事前課題を設定することで、本研修の受講に対する意識づけや知識の事前確認を行う点でメリットがあります。
- オンデマンド動画の前に設定する課題は、介護現場の生産性向上の取り組みの背景や動向を理解し、本研修受講の動機づけになります。
- オンデマンド動画の後に設定する課題は、集合研修の導入として、生産性向上の具体的なプロセスを確認することで、集合研修での理解促進や参加意欲につなげることができます。
- 受講生にとって過重な負担にならないよう、動画の視聴にとどめる、ミニレポートの文字数を最小限にするといった配慮も必要です。

事前課題の例

- モデル研修では、オンデマンド動画を視聴した後、集合研修開始までに取り組む課題として、厚労省の生産性向上に関する動画（e-ラーニング教材）を2本視聴し、200～400字以内のミニレポートを提出してもらう課題を出しました。
- この動画は集合研修で学習する内容の予習となる内容ですが、集合研修参加の動機付けになることを意図しました。
- 集合研修中の自職場での取り組み課題を実践する際にも参考になる動画であること、厚労省の生産性向上ポータルサイトにアクセスすることで、介護現場の生産性向上に関する情報収集の練習にもなります。

事前課題

1. 厚生労働省の生産性向上に関する動画「介護分野における生産性向上の取組の進め方」から、次の2つの動画を視聴すること。

①「手順1 改善活動の準備をしよう」

②「手順2 現場の課題を見える化しよう」



2. 2つの動画を視聴したうえで、あなた自身が自職場で生産性向上に向けた改善活動や介護ロボット・ICT導入のプロジェクトチームのリーダーを上手く務めるためには、どのような知識・技術、職場環境が必要になるか、200～400字以内で記述してください。

手順1 改善活動の準備をしよう

手順1では、改善活動に取り組むプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトリーダーを決め、経営層から事業所全体への取組開始を宣言します。取組を開始する際には、生産性向上の背景等を理解し、取組意欲を高めることが大切です。この動画では、介護の現場で生産性向上が必要となる理由や、どういった効果が見込めるかなどを解説しています。初めて生産性向上に取り組まれる方だけでなく、生産性向上とは何かから学びたいという方もこの動画からご覧ください。

生産性向上とは何か (約8分)

手順2 現場の課題を見える化しよう

手順2では、プロジェクトメンバーが皆で現場の課題を明らかにします。この動画では、取組の一連のプロセスを手順1～5の順に説明しています。加えて手順2での課題把握に役立つ2つのツールの使い方も紹介しています。ツールのダウンロードも以下で行えますので、事業所内の課題把握にご活用ください。

生産性向上の一連のプロセス (約8分10秒)



3 集合研修(面接授業)

集合研修前

- 研修に参加する際は、授業中に文書作成やアプリの操作が必要になることから、原則、PCでアクセスしていただく必要があります。次のようなケースは、授業内でのICTツールやアプリの操作に不具合が生じる可能性があるため、事前にダウンロードや動作確認をおこなうこと等について周知が必要となります。

例 介護施設向けの業務用タブレット端末でアプリ使用に制限がある

施設から複数名で参加しWi-Fi接続が不安定になる

Googleアカウントを持っていない

- ICTツールを使用する際、受講生個人のメールアドレスを用いる場合がありますが、受講生個人が使用できるメールアドレスがない施設・事業所もあるため、受講生には事前に、Googleアカウント等を取得してもらう必要がある。
- 研修で用いるツールやアプリについては、研修開始前に勉強会を開催することで、受講生の安心や受講意欲の向上にもつながります。

集合研修中

- 受講生が介護現場の生産性向上の取り組みを効果的に行うことができるよう、教材として業務改善の実践ツールや書式、ICTツールをグループワーク等の演習を通し学習していきます。
- 研修期間中、受講生自身が様々なICTツール等に触れる機会を設定することで、業務の効率化を体験的に理解できるように配慮してください。

<介護現場の生産性向上ツールの例>

- 介護分野における生産性向上ポータルサイト



<ICTツールの例>

- Web会議ツール：Zoom
- コミュニケーション・ツール：Slack、LINE WORKS
- Google スプレッドシート、スライド、Jamboard、ドライブ、Keep、フォーム

4 自職場での取り組み課題

- 受講生が、実際に勤務先で生産性向上の取り組みを行うことができるように、厚生労働省のツールや書式等を課題の様式として用いてください。
- 自職場での取り組み課題として作成したシート等は、単に課題として提出するだけでなく、次の面接授業で発表・報告し、他の受講生と共有する機会を時間を設けることで、相互に理解を深めることができます。
- 勤務先の状況や事情により、業務分析や介護ロボット・ICT 導入等の実践ができない場合もあるため、課題の提出や取り組み状況については柔軟な対応も必要となります。

<介護現場の生産性向上ツールの例>

- 介護分野における生産性向上の分析ツール

「改善方針シート」



改善方針シート

	課題 1)	課題 2)	課題 3)
改善する課題			
改善活動案			
実施する改善活動			
課題解決の取り組み優先度			
担当者			



進捗管理シート

■改善方針

活動のゴール	
振り返り (改善活動実施後に記入)	

■進捗管理表

	改善プロセス	担当者	期間 (いつまで終わりたいか目標を記載)	所要日数 (各プロセスに必要な日数を記載)	実施事項	年																	
						実施有無	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月						
実行計画を立てよう	改善活動の具体化をしよう (改善活動のステップを書いてみよう)																						
	改善活動の推進体制を整えよう																						
	事業所内で活動内容を周知しよう																						
	改善活動開始に向けて オリエンテーションを実施しよう																						
改善活動に取り組みよう	改善活動を実施しよう																						
	ステップ①																						
	ステップ②																						
	ステップ③																						
	ステップ④																						
改善活動を振り返りよう	定量的な振り返り	業務時間に変化があったか確認しよう																					
	定性的な振り返り	職員の仕事やすさに変化があったか確認しよう																					
	定性的な振り返り	ケアの質に変化があったか確認しよう																					

5 伴走的支援

- 面接授業での ICT ツールを活用した演習において、グループワークのファシリテーションと、ICT ツール使用のサポートを行うため、サブ講師を配置していきます。
- 自職場での取り組みをサポートするため、サブ講師はコミュニケーション・ツール等を活用し、介護ロボット・ICT 導入等に関する情報提供等を行ってください。
- サブ講師は、複数名の受講生にオンラインで効率よく対応することと、現場目線での相談対応を行うため、次のような採用要件が考えられます。

<サブ講師要件の例>

- 介護現場での実務経験がある。
- 施設・事業所等に勤務していたとき、勤務先での介護ロボット・ICT の導入にプロジェクトのリーダーまたはメンバーとして携わった経験がある。
- グループワークなどのファシリテーションができる。
- Web 会議システムや授業内で使用する ICT ツールの基本的な使用ができる。



デジタル・テクノロジー 基本研修のカリキュラム

1 シラバス

1 受講の準備

- 導入動画：オンデマンド動画受講前の予習として推奨するもの

課題名	介護現場の生産性向上	総時間	60分
目標	介護現場の生産性向上に関する国の取り組みと、基本的な考え方を確認する。		
	<p>厚生労働省の生産性向上に関する次の2つの動画を視聴すること。</p> <p>①「介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について」(厚生労働省老健局高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室)</p> <p>②「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～」(株式会社 TRAPE)</p> <p>参考： 「2023 介護事業所向け生産性向上ビギナーセミナー」(厚生労働省サイト)</p>  <p>※動画で使用しているスライド資料をダウンロードできます。</p>	動画 視聴	<p>YouTube：</p> <p>「生産性向上の取組に関する介護事業所向けビギナーセミナー(関東)」</p> <p>「介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について」(22分)</p>  <p>「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント」～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～(36分)</p> 

2 オンデマンド動画（必須）

- 介護過程の実践力

科目名	介護過程の応用的理解	総時間	70分
目標	介護福祉士の実践の基盤である介護過程に関する知識を確認し、介護ロボット・ICT 活用を利用者の支援につなげる視点と、PDCA の考え方を理解する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. 介護過程の概要 (1) 介護過程とは (2) 介護過程の意義と目的 (3) 介護過程の展開 2. 生活支援の考え方と介護過程 (1) アセスメントの視点・方法 (2) アセスメントと ICF 3. 介護計画 (1) 介護計画とは (2) 個別介護計画の立案	40分	「令和3年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果」(厚生労働省サイト)  『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること(業務改善の手引き)パイロット事業令和2年度版』(令和3年3月, 厚生労働省老健局高齢者支援課)
動画②	4. 介護ロボット・ICT 活用と介護過程 ・自立支援を目的とした活用に関する事例 ・介護ロボット・ICT 活用によるアセスメントに関する事例 ・介護ロボット・ICT 活用による利用者のモニタリングに関する事例	25分	 ※参考資料 令和2年度社会福祉推進事業「介護現場における介護過程実践の実態調査及び効果検証に関する調査研究事業根拠に基づく介護実践のヒント介護過程 実践事例集」
	5. まとめ ・介護過程とは ・アセスメントの視点 ・介護ロボット導入の目的	5分	

科目名	科学的介護の基礎的理解	総時間	90分
目標	ケアの質向上に向けて科学的介護を実践する意義と、基礎的な知識を習得する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. 科学的介護の理解 (1) 科学的介護とは (2) エビデンスにもとづいた介護の実践 (3) 科学的介護のめざす姿 2. 科学的介護情報システム (LIFE) の理解 (1) LIFE の役割 (2) フィードバック情報としての活用 3. 利用者の状態と介護のとらえ方 (1) 介護分野におけるデータの基礎的理解 (2) 測定する対象のとらえ方 ・単純集計 ・クロス集計 4. LIFE で用いられる評価指標 ・ Barthel Index ・ 障害高齢者の日常生活自立度 ・ 認知症高齢者の日常生活自立度 ・ Vitality Index	45分	「科学的介護情報システム (LIFE) による科学的介護の推進について」 (厚生労働省老健局老人保健課)  ※参考資料【動画】 「バーセルインデックス (BI) の評価方法について」(厚生労働省)  ※参考資料【動画】 「令和4年度科学的介護に向けた質の向上支援等事業研修会」(厚生労働省) 
動画②	5. フィードバックデータを活用したケア改善のための事例① LIFE の利活用に向けた体制等の準備 (多職種協働での視点と情報共有) 6. フィードバックデータを活用したケア改善のための事例② 自施設・事業所の特徴を把握する (着眼点の決定、全国平均との比較、大きな差異の探索、要因の検討)	40分	「ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム (LIFE) の利活用に関する事例集」p15～18 (厚生労働省) 
	7. まとめ ・科学的介護とは ・LIFE の役割 ・評価指標の使い方 ・データの活用方法	5分	

科目名	介護職の倫理と利用者の全人性・尊厳の実践的理解	総時間	70分
目 標	尊厳の保持と自立支援の考え方を基に、利用者の生活全体をとらえる視点と、その尊厳が損なわれている状況に気づき実践を改善するための知識を習得する。		

動 画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. 尊厳の保持と自立支援の意味 ※日本国憲法、社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、社会福祉士及び介護福祉士法をもとに理解する。 2. 介護職の倫理の意味の理解 (1) 日本介護福祉士会倫理綱領の意味 (2) 生命倫理の4原則の意義 3. 虐待防止と身体拘束廃止の意味と実践 (1) 高齢者等の虐待の定義と実態 (2) 高齢者等の身体拘束の定義実態	40分	
動画②	4. 介護ロボット・ICTの利活用と介護の倫理 ・利用者のプライバシーと尊厳に関する事例 ・利用者の自立支援と尊厳に関する事例	25分	
	5. まとめ ・尊厳の保持と自立支援 ・介護の倫理と法的規定 ・高齢者虐待と身体拘束 ・介護ロボット・ICTの利活用と倫理	5分	

● チームをまとめる力

科目名	チームがまとまり成果を生み出す考え方と方法	総時間	80分
目 標	介護の質向上に結びつく業務の効率化をチームで生み出すための、リーダーシップ、フォロアーシップ、マネジメントのあり方と方法を習得する。		

動 画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. チームがまとまり成果を生み出すリーダーの役割 (1) リーダーシップとは(チームが構築され機能するための理論と方法) (2) チームで生きる、リーダーシップ、フォロワーシップ、マネジメント (3) スタッフの教育と指導 2. メンバーのやる気と成長を支援する (1) 阻害要因の除去 (2) やる気と成長の促進 (3) フィードバックとアドバイス (4) メンバーの能力醸成 3. チームが機能する心理的安全性づくり (1) 心理的安全性とは (2) 信頼との違い (3) 介護現場における心理的安全性 (4) チームが機能する心理的安全性づくりの方法	40分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること(業務改善の手引き)パイロット事業令和2年度版』(令和3年3月, 厚生労働省老健局高齢者支援課)  『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』(厚生労働省老健局) 
動画②	4. 有効な業務改善を進める方法 (1) 業務改善の目的の明確化 (2) 介護現場の問題の発見と課題の見える可 (3) PDCA サイクルを活かす 5. PDCA サイクルを循環してチームマネジメントする (PDCA サイクルのポイント) (1) 具体的な計画を立てる (2) 計画に沿って実行する (3) 実行した内容の測定や評価をする (4) 評価を基に対策や改善を行う	35分	
	6. まとめ ・チーム構築とメンバー支援 ・チームの心理的安全性とは ・PDCA サイクルの理解	5分	

- 生産性を向上させる力

科目名	介護現場の問題発見と解決スキル	総時間	70分
目 標	問題の本質を理解し、その発見から解決までのプロセスに活かせる、着眼点・発想の技法・業務改善手法の知識と技法を習得する。		

動 画	含まれる内容	時間	教材等
動画①	1. 問題発見と論理的思考 ・問題とはそもそも何か ・問題の種類と、課題との相違点は何か 2. 論理的思考を見える化する ・論理的思考とは何か ・思考の発散と収束する意味 ・フレームワークの種類と効果	20分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課）  『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） 
動画②	3. 論理的思考を見える化する例① ・ロジック・ツリーの使い方 4. 論理的思考を見える化する例② ・マンダラートの使い方	20分	
動画③	5. チーム力を生み出す会議と対話 (1) 会議の意味と目的 (2) 会議をマネジメントするファシリテーション 6. ファシリテーション技法 (1) 会議の目的を共有する (2) グラウンドルールの意義と効果 (3) 会議の進行方法 (4) 対話の見える化（板書の方法）	25分	
	7. まとめ ・問題と課題の相違 ・論理的思考とフレームワーク ・ファシリテーションの意義とスキル	5分	

科目名	介護ロボット・ICT活用の基礎的理解	総時間	40分
目標	利用者の自立支援や介護業務の負担軽減を実現するために必要となる、介護ロボット・ICTに関する基本的な知識を習得する。		

動画	含まれる内容	時間	教材等
動画	1. 介護ロボットとは (1) 介護ロボットの定義 ・重点分野 (2) 介護ロボットの例 ・移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り・コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援 2. 介護ロボット・ICTに関する国や自治体の支援 ・生産性向上に資するガイドライン ・地域医療介護総合確保基金 ・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（相談窓口、リビングラボ）	35分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課）  『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局）  「介護ロボットの開発普及の促進」（厚生労働省） 
	3. 介護ICTとは (1) ICTとは (2) 介護ICTの例 ・介護ソフト、オンラインツール、インカム、デバイス 4. セキュリティ ・セキュリティ対策 ・個人情報保護		・介護ロボットとは ・介護ロボットの開発支援について ・介護ロボットの導入・活用支援
	5. まとめ ・重点分野 ・介護ロボット・ICTの最適な使い方	5分	

● 事前課題（集合研修開始までに取り組む課題）

課題名	介護現場の生産性向上についての基本的な理解		総時間	—
目標	介護現場の生産性向上についての考え方と、具体的な取り組み方法や流れを理解する。			
	<p>1)厚生労働省の生産性向上に関する動画「介護分野における生産性向上の取組の進め方」から、次の2つの動画を視聴すること。</p> <p>①「手順1 改善活動の準備をしよう」 ②「手順2 現場の課題を見える化しよう」</p> <p>2)2つの動画を視聴したうえで、あなた自身が自職場で生産性向上に向けた改善活動や介護ロボット・ICT導入のプロジェクトチームのリーダーを上手く務めるためには、どのような知識・技術、職場環境が必要になるか、200～400字以内で記述してください。</p> <p>提出方法：研修管理システム『ケアウェル』 提出期限：受講申込をした集合研修の初回面接授業前日まで</p>	<p>動画視聴</p>	<p>「介護分野における生産性向上の取組の進め方」（厚生労働省サイト）</p>  <p>「手順1 改善活動の準備をしよう；背景理解～生産性向上とはなにか～」(8分)</p>  <p>「手順2 現場の課題を見える化しよう；課題把握～生産性向上の一連のプロセス～」(8分)</p> 	

3 集合研修（必須）

- 生産性を向上させる力

科目名	介護現場の業務改善（演習）	総時間	180分
目標	介護現場の業務改善を行うために必要となる、基本的な知識を習得する。業務改善の手順とツールの使い方を体験的に理解し、自職場での効果的な実践をめざす。		

授業	含まれる内容	時間	教材等
1・2 限目	1. 業務改善意識の醸成 ・プロジェクトチームの立ち上げ ・メンバーの選定 2. 業務改善プロジェクトの進め方 ・全体の流れ ・改善活動を実践する意義の伝達 3. 介護現場の課題の可視化 (1) 課題把握 (2) 業務時間調査 ・業務時間見える化ツール ・24時間シート 4. 人員配置の適正化 5. 課題解決の方針の決定 ・改善方針シートの作成 ・進捗管理シートの作成 6. 業務時間調査の演習 ・業務時間見える化ツールを使い業務時間調査 ・グループワーク	180分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課）  『介護サービス事業（居宅サービス分）における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』（令和4年3月，厚生労働省老健局振興課）  『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局） 

<活用が可能な ICT ツール>

- ・オンライン会議ツール：Zoom
- ・Google スライド

科目名	介護ロボット・ICTの導入(演習)	総時間	180分
目標	介護ロボット・ICTの導入と適切な利活用を実現するために必要となる、基本的な知識を習得する。導入手順を体験的に理解し、自職場でのプロジェクトに活かす。		

授業	含まれる内容	時間	教材等
1・2 限目	1. 自職場で行った課題(業務分析)の共有 2. 導入プロジェクトチームの立ち上げ 3. 導入する介護ロボット・ICTの調査 ・メーカーサイト ・展示会 ・相談窓口(介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム) 4. 国や自治体が行っている導入支援 5. 介護ロボット・ICT選定の基準 6. 導入計画の作成 ・導入講習会 ・マニュアル作成 7. 導入する介護ロボット・ICTの調査 8. 導入計画の作成 ・介護ロボット・ICTを導入するための具体的な計画を考えてみる	180分	『【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること(業務改善の手引き)パイロット事業令和2年度版』(令和3年3月,厚生労働省老健局高齢者支援課)  『介護サービス事業(居宅サービス分)における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』(令和4年3月,厚生労働省老健局振興課)  『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』(厚生労働省老健局) 

<活用が可能なICTツール>

- ・オンライン会議ツール: Zoom
- ・Google スライド
- ・Google スプレッドシート
- ・Google keep
- ・Google 音声入力
- ・SCOP 体験版

科目名	利用者支援に向けた活用（演習）	総時間	180分
目標	介護ロボット・ICT 導入による個別介護計画の見直しや、介護の質向上に向けた対応など、自職場での取り組みの報告をとおし学習する。		

授業	含まれる内容	時間	教材等
1・2 限目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自職場でおこなった課題（導入計画）の共有 2. 効率的な情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・期間指定検索 ・Web ページやファイル内の検索 ・画像検索 3. 介護ロボット・ICT 導入と運用に関するコスト 4. データ活用のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・センサーが取得するデータの活用 5. 利用者支援への活用についての事例検討 (例) <ul style="list-style-type: none"> ・同僚の動機づけと説得 ・ケアテックを使った個別ケアの見直し 	180分	<p>【施設・事業所向け手引き】より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版』（令和3年3月，厚生労働省老健局高齢者支援課）</p>  <p>『介護サービス事業（居宅サービス分）における生産性向上に資するガイドライン改定案～介護の価値向上につながる職場の作り方～』（令和4年3月，厚生労働省老健局振興課）</p>  <p>『介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き』（厚生労働省老健局）</p> 

<活用が可能な ICT ツール>

- ・オンライン会議ツール：Zoom
- ・Google スプレッドシート
- ・Google スライド

● 自職場での取り組み課題（集合研修のなかで取り組む課題）

課題名	課題① 業務分析	総時間	約 4 週間
目 標	受講生が中心となってプロジェクトチームを立ち上げ、自職場の課題を可視化する。		
	<p>1) 自職場で、受講生自身が中心となり業務改善のためのプロジェクトチームを立ち上げたり、委員会で取り上げる。</p> <p>2) 面接授業のなかで用いた業務改善ツールを使用し、チームで業務分析（課題の可視化）を行う。</p> <p>3) 研修のグループ内で、自職場の業務分析の結果について共有する。【次回面接授業】</p> <p>提出方法：研修管理システム『ケアウェル』 提出期限：指定された期日（目安：次回面接授業日の3日前）まで</p>		<p>「介護分野における生産性向上ポータルサイト」(厚生労働省)</p> 

課題名	課題② 介護ロボット・ICT 導入計画の作成	総時間	約 4 週間
目 標	業務分析によって可視化された課題を解決するために適切な介護ロボット・ICT を選定し、その導入のための計画を作成する。		
	<p>1) 面接授業のなかで用いた書式を活用し、自職場で介護ロボット・ICT を導入するための導入計画をチームで作成する。</p> <p>2) 研修のグループ内で、自職場の導入計画の概要と進捗状況について共有する。【次回面接授業】</p> <p>提出方法：研修管理システム『ケアウェル』 提出期限：指定された期日（目安：次回面接授業開催の3日前）まで</p>		<p>「介護分野における生産性向上ポータルサイト」(厚生労働省)</p> 

2 集合研修（面接授業）カリキュラムの例

介護現場の業務改善（演習）180分

授業のゴール

- 介護現場の業務改善を行うために必要となる、基本的な知識を説明できる。
- 業務改善の手順とツールの使い方を理解し、自職場で実践できる。
- 研修を通じて、有益な ICT ツールを使うことができる。
- 受講生や講師と交流し、ネットワークを構築できる。

授業内容

1. 生産性向上ガイドライン解説

- (1) 社会的背景
- (2) 介護事業所の生産性向上
- (3) 業務改善の取組成果のイメージ
- (4) 業務改善フロー

【演習 1】個人ワーク

あなたが勤める施設で、業務改善委員会を立ち上げることになった場合、プロジェクトのメンバーにどんな役職または特徴の人を誘い、誰にリーダーを担ってもらうか、その理由も含めて書いてみましょう。

- (5) 改善活動 7 項目

【演習 2】個人ワーク

改善活動 7 項目を参考に、自事業所で過去取り組んだことがある（もしくは現在取り組み中の）改善活動を他の方と共有してみましょう。

<使用する ICT ツール>

・ Zoom（ブレイクアウトルーム）

【演習 3】ケーススタディ：グループワーク

A 施設長は3カ月前に同じ法人の他の施設から、介護付き有料老人ホーム 虹に異動となりました。前施設長は介護職不足を補うためにほとんど現場に入っていたため管理職としての仕事がおろそかになっており、様々な課題が噴出しています。

A 施設長は現場から「気になること」をひろうと同時に各ユニットリーダーや専門職、事務職リーダーによる業務改善委員会を立ち上げました。

みなさんは業務改善委員会のメンバーです。集まったメンバーは「忙しいけれど何とかしなければ」とやる気になっています。

課題：

- ① A 施設長が現場から集めた「気になること」(受講生数の付箋)を各グループで確認し、改善活動7項目に分類整理する(25分間)
- ② 「最初に取り組むべき課題と具体的なアクション」を受講生が1人で考える(5分間)
- ③ 最初に取り組むべき課題とアクションについて、グループ内で話し合う(15分間)

<使用する生産性向上ツール>

- ・課題分析シート(課題把握シート)
- ・気づきシートと因果関係図
- ・業務時間調査票
- ・改善方針シート

出典：厚生労働省老健局，介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上に資するガイドライン(令和2年)

<使用する ICT ツール>

- ・Zoom(ブレイクアウトルーム)
- ・Google スライド
- ・JAM Board

2. デジタル活用が進んだ施設紹介(動画視聴)

【事例1】動画視聴

動画の感想を、受講生同士で共有(5分間)

<使用する ICT ツール>

- ・Zoom(ブレイクアウトルーム)

介護ロボット・ICT導入（演習）180分

授業のゴール

- 介護ロボット・ICT の導入と適切な利活用を実現するために必要となる、
- 基本的な知識を習得する。
- 導入手順を体験的に理解し、自職場に活かす。

授業内容

1. 自職場で行った業務分析についての共有

【演習 1】発表、グループディスカッション

前回の授業で課題として出された、自職場での取り組み課題（課題①：業務分析）の結果について、グループ内で報告し、ディスカッションを行う。（25分）

<使用するICTツール>

- ・Zoom（ブレイクアウトルーム、画面共有）

2. 主要な介護ロボットの解説

(1) 介護ロボットとは

(2) 介護ロボットの普及状況

(3) 介護ロボットの例

（移乗支援／移動支援／排泄支援／見守り・コミュニケーション／入浴支援）

【演習 2】個人ワーク

「眠りSCAN」（パラマウントベッド株式会社）の睡眠日誌より、利用者の睡眠情報から、睡眠の特徴と生活改善の方向性を考えてみましょう。

3. 主要なICTの解説

(1) 介護ICTとは

- ・介護ICTとは
- ・代表的な介護ICT

(2) 介護ICTの導入メリット

- ・介護職員の業務改善
- ・利用者の QOL 向上
- ・多職種連携の促進
- ・職場コミュニケーションの円滑化
- ・コスト削減

(3) 介護ICTを実際に見てみよう

- ・介護ソフト
- ・OCR ツール

【演習3】個人ワーク

タブレットやスマートフォンで使える介護記録ソフトを体験してみよう。

<使用するICTツール>

- ・SCOP (株式会社善光総合研究所)

【演習4】個人ワーク

利用者の情報について音声入力で記録しよう。

『長女様との面会中に体熱感を訴えられたため、検温したところ 36.8 度。その後、夕食前に食欲を確認したところ「食べたい」とおっしゃったため、離床介助を実施してリビングにお連れする。看護の判断でラキソベロンは見送る。』

<使用するICTツール>

- ・Google 音声入力 (スマートフォン)

【演習5】個人ワーク

手書きの文字をデータ化してみよう!

<使用するICTツール>

- ・Google keep (スマートフォン)

4. 職場を変革に導くリーダーシップ論

- (1) リーダーシップとは何か
- (2) 介護福祉の現場で求められるリーダーシップ
- (3) リーダーの責任
- (4) 職場の停滞
- (5) 成長する組織文化

(6) セルフリーダーシップ

(7) その他

- ・困った行動を示す部下との向き合い方
- ・リーダーに必要な力
- ・リーダーシップとマネジメント
- ・PDCA
- ・KPIとKGI
- ・「6：2」の法則
- ・コーチング

授業を運営する際の留意点

1) Zoom 操作の事前確認

授業内で使用する機能について、体験的に確認する時間を設ける。

- ①マイク&ビデオのオン・オフの切り替え
- ②チャット
- ③ギャラリービュー・スピーカービューの切り替え
- ④画面の共有

2) グループワーク（ブレイクアウトルーム）の前のアイスブレイク

3) グループワーク中のファシリテーション

介護現場の皆様へ ～研修に参加するときに気をつけていただきたいこと～

（受講について研修機関へ問い合わせがあったら、ぜひ、アドバイスしてください）

- 本研修には、実際にアプリを操作したり、受講生同士で話し合いながらオンラインツールを使って導入計画を作ったりするような、体験的に学習するプログラムが多く含まれています。
- オンラインで参加できるからと言って、ふだんの仕事をしながら「耳だけ参加」しても、研修の効果を得ることはできません。
- また、同じ職場から大勢で参加する場合、データ通信量に負荷がかかることでインターネットが不安定になり、最悪の場合、Zoom のアクセスやアプリ操作ができない状態になります。
- 研修に参加する際は、受講に集中できる環境を十分に整える必要があります。受講生自身も、研修に職員を送り出す施設・事業所も、本研修の目的と、スキルを習得するために必要な学習環境の確保について、相互にしっかり確認したうえで参加してください。

3 受講生用自己評価チェックリスト

- 本研修における学習意欲や生産性向上の取り組みに対するモチベーション向上につなげたり、研修の効果測定に活用してください。

(別紙)

介護現場の生産性向上の取り組み(理解・実践)に関するチェックリスト

今後の自己学習のポイント整理や、自職場での生産性向上の取り組みを推進する上で、自分自身の認識や行動のふりかえりに役立ててください。

質問 1 介護現場でのデジタル・テクノロジー導入・活用や生産性向上について、現在のあなた自身に該当するものを1つ選んでください。		まったく知らない	あまり知らない	だいたい知っている	よく知っている
1	介護現場の生産性向上の目的	1	2	3	4
2	介護現場の生産性向上が必要な理由	1	2	3	4
3	主要な介護ロボットの特徴	1	2	3	4
4	主要な介護 ICT の特徴	1	2	3	4
5	科学的介護の目的	1	2	3	4
6	アセスメントにテクノロジーを活用する有効性	1	2	3	4
7	心理的安全性のノウハウを用いた職場の風土づくり	1	2	3	4
8	業務改善委員会の目的	1	2	3	4

質問 2 自職場での生産性向上の取り組みについて、現在のあなた自身に該当するものを1つ選んでください。		実践できない	あまり実践できない	だいたい実践できる	実践できる
1	主要な介護ロボットの特徴について上司や同僚へ説明する	1	2	3	4
2	主要な介護 ICT の特徴について上司や同僚に説明する	1	2	3	4
3	科学的介護の目的について上司や同僚に説明する	1	2	3	4
4	アセスメントにテクノロジーを活用する	1	2	3	4
5	心理的安全性のノウハウを用いた職場の風土づくり	1	2	3	4
6	業務改善委員会などプロジェクトチームの運営	1	2	3	4
7	課題把握シート等のツールを使った自職場の業務分析	1	2	3	4
8	自職場に介護ロボット・ICT を導入するための導入計画書の作成	1	2	3	4

(別紙)

介護現場の生産性向上の取り組みを推進することができる 人材に求められる力 チェックリスト

今後の自己学習のポイント整理や、自職場での生産性向上の取り組みを推進する上で、自分自身の認識や行動のふりかえりに役立ててください。

		実践できない	あまり実践できない	だいたい実践できる	実践できる
質問 1 介護現場でのデジタル・テクノロジー導入・活用や生産性向上について、現在のあなた自身に該当するものを1つ選んでください。					
1	常に改善の余地を見つける	1	2	3	4
2	介護現場の常識を疑う	1	2	3	4
3	組織の理念や使命と照らし合わせて考える	1	2	3	4
4	客観的にものごとを見る	1	2	3	4
5	解決に向けた取っ掛かりをつくる	1	2	3	4
6	小さい成功体験を積み重ねる	1	2	3	4
7	導入の必要性を具体的に説明する	1	2	3	4
8	導入による改善目標を具体的に示す	1	2	3	4
9	導入の有効性を多面的に考える	1	2	3	4
10	介護現場の生産性向上の目的や意味を示す	1	2	3	4
11	生産性向上の取り組みに信念をもつ	1	2	3	4
12	メンバーの裁量を認める	1	2	3	4
13	メンバーの強みを理解する	1	2	3	4
14	メンバーに自分事として課題を認識してもらう	1	2	3	4
15	メンバーの日々の意見に応える	1	2	3	4
16	メンバーの声にもとづき改善につなげるために話を引き出す	1	2	3	4
17	メンバーの感情や立場を理解して話を聞く	1	2	3	4
18	メンバーの異なる意見を受けとめる	1	2	3	4
19	相手にどう伝わっているかを意識して伝える	1	2	3	4
20	相手の立場や感情に共感しながら伝える	1	2	3	4
21	相手のニーズに合わせた形で情報を伝える	1	2	3	4
22	課題とメンバーをつなぐ	1	2	3	4
23	チームをフォローする	1	2	3	4
24	成功体験をチームと共有する	1	2	3	4
25	チームの自主性を高めるために一歩引く	1	2	3	4
26	成果を上げるタイミングを見極める	1	2	3	4
27	自分自身の能力や性格を謙虚に評価する	1	2	3	4

DIGITAL TECHNOLOGY

令和5年度 老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)
介護現場の生産性向上を促進するための中核人材のスキル強化と
習得プログラムに関する調査研究事業 報告書

令和6(2024)年3月発行

公益社団法人 日本介護福祉士会

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目1番13号 小野水道橋ビル5階
TEL: 03-5615-9295 FAX: 03-5615-9296 E-MAIL: seisansei@jaccw.or.jp